

社会科における読解力の育成

＜本調査研究における社会科における読解力とは＞

社会的事象から学習の問題を見いだして追究・解決し、社会的な見方や考え方を深め、自らの社会生活に生かしていくために、社会的事象から必要な知識（情報）を読み取り、それをもとにしながら社会的事象の特色や相互の関連、社会的な意味、今後の在り方などを熟考する能力。

視点1 ＜読み考える力＞

- テキストを目的に応じて理解し、解釈する能力
- テキストを評価しながら読む能力
- 課題に即応した読む能力
- 多様な資料に対応した読む能力

視点2 ＜書く話す（表現する）力＞

- テキストを利用して自分の考えを表現する能力
- 自分の感じたことや考えたことを簡潔に表現する能力
- 自分の知識や経験と関連付けて表現する能力

調査研究の視点と手立て

＜読み考える力の育成＞

- さまざまなテキストを意図的に活用する。
- 質の高いテキストを活用する。
- 自らテキストに働きかける工夫をする。
- テキストを読み解く技能的な指導を行う。
- テキストの提示の工夫を行う。
- テキストを読み取る際にさまざまな学習活動の工夫をする。

＜書く話す（表現する）力の育成＞

- さまざまな表現活動を取り入れる。
- 「書く」活動を重視する。
- 「話す」活動を重視する。
- 自分の考えを簡潔に表現する力を育てる。

成果と課題

＜成果＞

2つの視点に基づき、手立てを講じた結果、それぞれの実践で以下のような生徒の変容が見られた。

- ・学習課題を自ら進んで意欲的に追究できた。
- ・テキストを適切に読み取り、より多面的、多角的な見方や考え方ができ、一層思考を深めることができた。
- ・言葉や文章、図などを活用して自分の意見などを場に応じて適切に表現することができた。

以上のことから、それぞれの実践において、成果を上げることができたと考える。

＜課題＞

- 今後の実践の継続と年間指導計画への位置づけ
- それぞれの技能の系統性を考慮した指導計画づくり
- 各分野間の有機的な関連を図る

実践事例

① 第2学年 歴史「明治維新」

② 第2学年 地理「世界と日本の自然環境」

③ 第3学年 公民「わたしたちの生活と経済」

④ 第3学年 公民「わたしたちの生活と経済」

社 会

1 はじめに

PISA 調査における読解力の定義は「自らの目標を達成し、自らの知識と可能性を発達させ、効果的に社会に参加するために、書かれたテキストを理解し、利用し、熟考する能力」である。このうち前半の部分は中学校社会科の目標である「公民としての基礎的教養を培い、国際社会に生きる民主的、平和的な国家・社会の形成者として必要な公民的資質の基礎を養う」と、後半の部分である「書かれたテキストを理解し、利用し、熟考する能力」については、社会的事象から必要な情報を読み取り、社会的事象の特色や相互の関連、社会的な意味を考える社会科の学習と重なる部分が多い。

以上のような観点に立ち、資料活用や表現の能力を一層はぐくみ、さまざまなテキストから必要な情報を適切に読み取り、学習の対象の特色や意味を考える力、資料を利用して自分の考えを表現する力などを育成する社会科学学習を、より意図的に取り組めるような手立てを講じれば、生徒一人一人の PISA 型読解力を高めることができるであろうという仮説を立て、研究を進めることとした。

2 本調査研究における「社会科における読解力」のとらえ方

読解力とは (PISA 調査より)

自らの目標を達成し、自らの知識と可能性を発達させ、効果的に社会に参加するために、書かれたテキストを理解し、利用し、熟考する能力

社会科における読解力とは (本調査研究における定義)

社会的事象から学習の問題を見いだして追究・解決し、社会的な見方や考え方を深め、自らの社会生活に生かしていくために、社会的事象から必要な知識（情報）を読み取り、それをもとにしながら社会的事象の特色や相互の関連、社会的な意味、今後の在り方などを熟考する能力

3 調査研究の視点

本調査研究では「読解力の育成」を「読み考える力の育成」と「書く話す（表現する）力の育成」の2つの視点に分け、取組を推進することとした。

視点1 読み考える力の育成

本研究で考える「読み考える力」

- テキストを目的に応じて理解し、解釈する能力
- テキストを評価しながら読む能力
- 課題に即応したテキストを読む能力
- 多様なテキストに対応した読む能力

視点2 書く話す(表現する)力の育成

本研究で考える「書く話す(表現する)力」

- テキストを利用して自分の考えを表現する能力
- 自分の感じたことや考えたことを簡潔に表現する能力
- 自分の知識や経験と関連付けて表現する能力

なお、広い意味では社会科におけるテキストは、「社会科学学習の対象となるすべての社会的事

象」であり、狭い意味では教科書や地図帳、資料集、新聞、パンフレット等のいわゆる社会科の「資料」である。

4 調査研究の方策

(1) 読み考える力の育成

① さまざまなテキストを意図的に計画に位置付けて活用する

社会科ではさまざまなテキストを活用して学習を進めている。具体的には、教科書、資料集、地図帳、広報誌、パンフレット、図書資料、事典、歴史資料、HP上の各種資料、人からの聞き取り、実物資料、レプリカ、現地調査、写真、ビデオなどの映像、手紙、年表、新聞、統計資料、各種の地図資料、絵（イラスト）等、多種多様である。これらの多種多様のテキストを意図的に指導計画に位置付け、効果的に活用する授業を展開する。

② 発達段階に応じた質の高いテキストを活用する

テキストを活用する上では、当然のことではあるが、生徒の発達段階を十分に考慮した上で質の高いものを活用することが重要である。具体的には生徒の感情に訴え心を揺さぶるもの、多様な解釈のできるもの、生徒にとって新鮮なもの、生徒にとって身近な地域の素材に関するもの等のテキストをよく吟味し、質の高いものを選択して活用する。

③ 生徒が自らテキストに働きかける工夫をする

生徒自らがテキストに働きかけるような学習の工夫が求められる。そのためには、何のためにそのテキストを読み取るのか、読み取った知識を活用して何を明らかにするのかなどの目的意識を明確にし、見通しをもってテキストを読み解く力を身に付けていけるようにする。

④ テキストを読み解く技能的な指導を行う

テキストを読み解く技能的な指導が大切である。テキストを狭い意味に解釈して社会科の「資料」として考えてみると、資料そのものの全体から読み取る力（どんな資料なのか、出典は何か等）や分析的に読み取る力（何年から何年までの伸びが大きい等）、批判的に読み取る力（なぜだろうか、理由があるはずだ、違う項目ではどうだろうか、本当にそうだろうか等）、そうした上で、それらを総合的に読み取る力（5W1Hを活用して、内容を整理して分かることと分からないことを区別してまとめる、その意味付けができる等）を育成することが大切である。

⑤ テキスト提示の工夫を行う

テキスト提示の工夫が大切である。具体的には相互に矛盾するテキストの提示、予想した後のテキストの提示、数量的な驚きを生かすようなテキストの提示等、テキストの提示を工夫する必要がある。また教科書や資料集に載っている資料でも、大きくして学級全員またはグループ全員で見合いながら読み取ることにより、より深く読み取る学習が成立する。

⑥ テキストを読み取る際にさまざまな学習活動の工夫をする

よりテキストを深く読み取り、自分の考えを導き出すためには、学習活動におけるさまざまな工夫が重要である。具体的にはテキストを読む際に、学習形態として学級全体で行う場合もあれば、グループでの学習を組む場合もあるが、テキストの種類や生徒の実態等に応じて工夫することが必要である。また既習学習や既習経験との比較を行ってテキストを読み取る場合もあれば、いわゆる「転移力」を活用して事象を読み解く場合もある。さらには社会科においては、事象を読み解く中で「なぜだろう」という次の問いをもつことを大切にするが、このような問いの連続の生まれるような単元構成の工夫を行うことも大切である。

(2) 書く話す（表現する）力の育成

① さまざまな表現活動を取り入れる

学習における表現活動にはさまざまな方法がある。社会科においても具体的には以下のような活動が一般的には行われている。これらの活動を指導計画に意図的に位置付けて積極的に取り入れることが重要である。

- 発表や話し合い、ディベート的な討論活動など主として言語活動による活動
- 作文や新聞、脚本、吹き出しなど主として言葉や文字を中心とした活動
- 絵やイラスト、図表、年表、カードなどを活用したビジュアルな活動
- ロールプレイ、模擬体験など身体を使った活動による活動
- 土器づくり、立体地図づくりなど「もの」をつくる活動
- コンピュータ、ビデオカメラ、写真など視聴覚機器を使った活動

② 「書く」活動を重視する

学習したことを自分の知識として理解するためには、自分の調べた情報を書くことにより客観的に振り返り、自分なりの理由付けやその価値を考えることが重要である。PISA 調査における読解力においてはクリティカル・リーディングの重要性が指摘されているが、そのような学習活動はまさにこれと類似している。資料から読み取れたことは、必ず書き、振り返り、意味付けをさせること、さらに学習の最後には、本時の学習を通して学んだことについて書く時間を設けることが大切である。ワークシートの活用など、「書く」活動を重視し、その時間を確保することに留意する必要がある。

③ 「話す」活動を重視する

新学習指導要領においても各教科を貫く大きな課題として「言語活動の充実」が掲げられているが、「話す」活動は思考を深めるために重要である。そこで、以下のような学習活動を発達段階や生徒の実態に応じ、指導計画に意図的に位置付けることが大切である。

- ペアを組んで対話型で互いの考えと根拠を説明し合い、考えを修正する学習活動
- グループで同じ課題について、話し合い、考えを深める学習活動
- 違う課題を調べたもの同士でグループをつくり、お互いの調べたことを発表する中で、その類似点や相違点について話し合い、考えを深める学習活動
- 集団の前で代表者が発表し、その意見に対して話し合い、考えを深める学習活動
- 集団でお互いの考えや意見を述べ合い、いくつかの類型にまとめていく学習活動
- パネル等を準備し個人やグループで集団の前で発表し、意見交換をする学習活動
- ディベートによる学習活動

④ 自分の考えを簡潔に表現する活動を取り入れる

「書く」活動や「話す」活動を充実させていくと同時に、自分の考えを簡潔に表現できるようにすることが重要である。そこで、以下のような学習活動を発達段階や生徒の実態に応じ、指導計画に意図的に位置付けて指導していくことが大切である。

- 表現の場を工夫し、伝える目的や条件、相手などを明確にする。
- 結論に当たる自分なりの考えとその理由や根拠を分けて表現する。
- 事実と自分の考え、その理由などを分けて段落を考えて表現する。
- ワークシートなどを活用して単元を通してノート指導を充実させ、学習したことを振り返り、まとめる活動を行う。